

動物実験をしない化粧品を選ぶことは動物にとってどのような影響を及ぼすのか

3年1組7番 今市 菜月

Keyword: 「動物実験」「化粧品」「児童労働」「植物性油脂」「動物性油脂」

1. 研究動機

私がこのテーマに興味を持ったきっかけは、国際高校の先輩方が探究活動で取り組んでいたことにある。その活動を通して、私たちが日常的に使っている化粧品やシャンプーの多くが、動物実験を経て作られているという事実を知った。これは、人間の「きれいになりたい」という欲望のために、動物の犠牲が生じているという重大な問題であり、向き合う必要があると感じた。

2. 目的・問い

この探究活動の目的は、まず高校生に化粧品の動物実験の現状を知ってもらうことである。そして、少しでも化粧品の動物実験の減少に繋げるために「動物実験を行っていない化粧品を選ぶ」という行動がどのような影響を与えるのかを明らかにすることを問いとした。

先行研究として、動物実験の方法や対象、代替技術、企業の取り組み、そして動物実験に伴う問題点などが多く報告されている。そのため、動物実験を行わないことで引き起こされる別の問題など、幅広い情報を収集した。まずはその情報を国際高校生にわかりやすく伝えることを実施した。

3. 結果と分析

化粧品の動物実験とは、人間が安全に化粧品を使用できるかどうかを確認するために動物に対して行われるテストのことであり、代表的なものとして、ウサギの眼に化粧品成分を直接入れて刺激を調べる眼刺激性テストや、ネズミの皮膚に化粧品を塗って反応を見る皮膚刺激性テストなどがある。これらの実験は、動物が強い痛みを伴いながら行われることが多く、ウサギが首を固定されて耐えきれず死亡してしまうケースも報告されている。また

、実験では動物の子どもが使われる場合もあり、倫理的な問題が指摘されている。さらに、動物で安全な結果が出たとしても、人間に対して同じ結果が得られるとは限らず、科学的な限界も存在する。

一方で、化粧品に使われる油脂には動物性油脂と植物性油脂があり、動物性油脂は製造過程で動物実験が行われている可能性が高いが、植物性油脂を使用することで動物実験を避けながら化粧品を作ることが可能である。植物性油脂にはアブラナ、ココナッツオイル、ホホバオイルなどがあり、これらを使った化粧品は動物実験なしで製造できるという利点がある。しかし、植物性油脂にも別の課題があり、これらの原料となる植物は発展途上国で栽培されていることが多く、その背景には児童労働の問題が関わっている場合もある。動物実験を避けたとしても、別の人権問題に関わる可能性があるため、慎重な選択には慎重さが求められる。

また、企業の取り組みとして、EUでは2013年に化粧品の動物実験が禁止されており、海外ではLUSHなどが動物実験を行わないブランドとして知られている。一方、日本では現在も多くの企業で動物実験が行われているが、資生堂や花王のように動物実験の廃止に向けて積極的に取り組む企業も見られる。このように、企業によって動物実験への姿勢は大きく異なり、消費者の選択が企業の行動を変える力になると考える。

さらに、高校生である私たちにできることとして、まず現状を知り、動物実験を行っていない化粧品を選ぶことが挙げられる。小さな行動であっても動物実験の減少に繋がる可能性がある。このように、化粧品の選び方は動物福祉だけでなく、原理の背景や企業の取り組みなど、多くの要素と関わっていることが明らかになった。

4. 結論

この探究活動を通して、私はこれまで可愛さや流行だけで選んでいた化粧品の裏側に、動物実験や児童労働、環境問題などの社会的課題などの社会的課題が存在することを知った。そして消費者である自分が商品を選ぶことによって社会に影響を与えられるという意識を強く持つようになった。

今後は、ただ知識を得るだけでなく、動物実験を行わない企業やサステナブルな商品を積極的に調べて選ぶことが必要である。また、SNSを利用して情報発信を行い、多様な人々に興味を持ってもらえる発信方法をくふうしていく必要がある。

5. おわりに

この探究活動を通して、化粧品を選ぶ際の意識が大きく変化した。これまでは可愛い・使いやすい・流行しているといった見た目や機能性だけで選んでいたが、今では「誰がどのような方法で作ったのか」という背景にまで目を向けて考えるようになった。動物実験の現状を知ること、消費者としての責任や影響力について深く考えるようになった。また、自分の行動が誰かの生活や選択に変化を与える可能性があることに気づき、知識を得るだけでなく社会に働きかける力を持つことへの自覚が芽生えた。

今後は、動物実験だけでなく、児童労働や環境問題など幅広い社会課題にも目を向けていきたい。そして、SNSなどを活用しながら、自分らしい方法で社会によりよい選択を広めていく活動を続けていくつもりである。SNSの動画なども活用し、分かりやすく情報を届けることで、多くの人に考えるきっかけを提供できるような生き方を目指したい。

6. 参考文献・出典

<https://www.java-animal.org/animal-testing/cosmetics/> NPO法人 動物実験の廃止を求める会 2025年4月22日

<https://www.pmda.go.jp/files/000208703.pdf>

厚生労働省 医薬品外品・化粧品の安全性評価における眼刺激性試験代替法としてのウサギ角膜由来株化細胞を用いた短時間暴露法に関するガイダンスについて 2025年4月22日

https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h2911/0-full.pdf 実験動物の飼育及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準の解説 2025年4月25日

<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/2484.html> wwfジャパン パーム油の問題とは 2025年4月25日

<https://acejapan.org/childlabour/report/fairtrade> ace 児童労働のない未来へ 4月28日

<https://weare.lush.com/jp/lush-life/our-ethics/fighting-animal-testing/> LUSH 2025年4月28日